

えのきがいと いせき  
榎垣外遺跡  
発掘調査報告書

(概 報)

平成 21 年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

# 序

岡谷市は諏訪湖の北西に位置し、東に八ヶ岳、南には遠く富士山を望み、季節の移り変わりを湖と山に見ることができるまちです。豊富な湧き水や緑深き山々の恩恵を受けて古くより多くの人々が様々な文化を育んでまいりました。

自然の恵みに支えられたこの地には縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安、中近世の各時代にわたり約200カ所の遺跡が確認されています。こうした先人の遺産を後世に伝えられるよう、岡谷市では、開発事業に伴う発掘調査を実施し、貴重な成果を記録に残すとともに、出土品の保存に努めております。

さて本年度の遺跡調査件数は20件に及び、貴重な調査成果を得ることができました。発掘調査によって得られた資料は、当時の人々の生活や社会を知るうえで非常に大きな役割を果たしており、これらの成果を、岡谷市民をはじめ多くの皆様に広く伝えてゆきたいと思っております。

報告書刊行にあたり、調査にご理解とご協力をいただきました土地所有者と事業主体者の皆様に感謝申し上げます。

本書が、考古学研究に活用されることのみならず、市民の皆様の郷土史に対する理解を深める一助となることを願っております。

平成22年3月

岡谷市教育委員会

教育長 岩下 貞保

# 例言

1. 本報告書は、榎垣外遺跡発掘調査報告書（概報）である。
2. 事業は、国の平成21年度国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国の補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成21年4月1日から平成22年3月19日まで実施した。整理作業は現場作業の少ない時期に行ったが十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書中の原稿執筆は山田武文、両角加代子が行い、全体の編集・作図は事務局が行った。

# 目次

序

例言

目次

1. 平成21年度試掘・確認発掘調査の概要…………… 1
2. 榎垣外遺跡・山道端地籍…………… 3
3. 榎垣外遺跡・山道端地籍…………… 5

## 1. 平成 21 年度試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、分布調査、農地転用、公共事業等が計画・実施され、岡谷市教育委員会が対応した件数は 20 件 11 遺跡であり、発掘調査を実施したのは 2 件 1 遺跡である。個人住宅や宅地造成などが 16 件、公共事業に関わるものが 2 件、その他 2 件となっており、個人による開発事業が遺跡調査の主な原因となっている。

ここ数年の傾向と同様に個人住宅建設に伴う調査は長地域域に多く、さらに宅地化が進んでいることがわかり、特に榎垣外遺跡の調査に集中した。

榎垣外遺跡の山道端地籍では、これまでの調査で刀子や墨書土器、円面硯などが出土しており、今回の調査では平安時代の住居址 4 棟と小竅穴 1 基が発見され、住居址から刀子や鉄鏝、緑釉陶器などが出土し、集落の広がりを確認することができた。

なお、発掘調査を行ったものについては本文中にその概要を記したが、発掘調査に至らなかった個所については下記の表によって詳細は省略した。

番号	調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構・遺物	遺構遺物の年代	調査面積(㎡)
1	4.1	東町田中	長地栄宮二丁目 1534-4 外	個人住宅建設	土器片・石片 1 袋	奈良平安時代	2
2	4.2	後田原	川岸西一丁目 4292-2	個人住宅建設	土器片・石片 1 袋	縄文時代	4
3	4.6~4.7	榎垣外スクモ塚(十三益)	長地謙一丁目 3594 外	個人住宅建設	土器片・石片 2 袋	縄文時代	4
4	4.6~4.7	榎垣外スクモ塚(十三益)	長地謙一丁目 3594 外	宅地造成	土器片・石片 1 袋	古墳奈良平安	16
5	4.21	志平	川岸西二丁目 9914-2 外	JR 付帯工事	土器片・石片 1 箱	縄文時代中期	21.5
6	5.8~5.13	榎垣外片岡町(下片岡町)	長地片岡町二丁目 2373-3	分布調査	竪立柱、土器片・石片	奈良平安時代	31.5
7	6.1	栗砂門堂下	川岸西二丁目 4738-1	個人住宅建設	土器片・石片 1 袋	縄文時代	8
8	6.26	榎垣外スクモ塚(十三益)	長地謙一丁目 3602-1	宅地造成	土器片・石片 1 袋	奈良時代	16
9	7.2	丸戸	神野明二丁目 601-9 外	墓地の増設	なし		24
10	7.3~7.13	榎垣外片岡町(山道端)	長地片岡町一丁目 2334-2 外	個人住宅建設	平土器片、土器片・石片	奈良平安時代	.46
11	7.14~7.24	榎垣外片岡町(山道端)	長地片岡町一丁目 2334-3	個人住宅建設	平土器片・石片外器	奈良平安時代	84.5
12	7.28	海戸	天竜町三丁目 6159-3	個人住宅建設	土器片・石片 1 箱	縄文時代中期	6
13	9.3~10.16	榎垣外片岡町(山道端)	長地片岡町二丁目 2353-1	宅地造成	平土器片、土器片・石片	奈良平安時代	170.5
14	10.1	西除入	川岸上二丁目 1237-1 1	個人住宅建設	石片 1 袋		6
15	10.27	栗砂門堂下	川岸西二丁目 4940-1	個人住宅建設	なし		8
16	10.28~11.18	大曲、菊盛	今井地先	国道 20 号改良工事	土器片・石片 1 袋	縄文時代中期	88
17	12.2	東町田中	長地栄宮三丁目 1532-2 外	個人住宅建設	土器片外 1 袋	平安時代	6
18	12.25	後田原	川岸西一丁目 4353-2	個人住宅建設	土器片・石片 1 袋	縄文時代中期	4.5
19	1.7~1.13	天王堀外	川岸町三丁目 5006-7	個人住宅建設	土器片・石片 1 袋	縄文時代	8
20	2.8~2.9	榎垣外スクモ塚(栗木海戸)	長地謙一丁目 3654-1	個人住宅建設	土器片 1 袋	縄文・奈良平安	11.3

第 1 表 平成 21 年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試験・確認免振調査地点 (番号は第1表の一覧表に同じ) (1:50,000)

## 2. 榎垣外遺跡・山道端地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地片岡町一丁目 2334-2 外

発掘調査の期間 平成 21 年 7 月 3 日から

平成 21 年 7 月 13 日

調査の原因 個人住宅建設

調査面積 46.0 m<sup>2</sup>

発見された遺構 平安時代住居址 2 棟、小堀穴 1 基

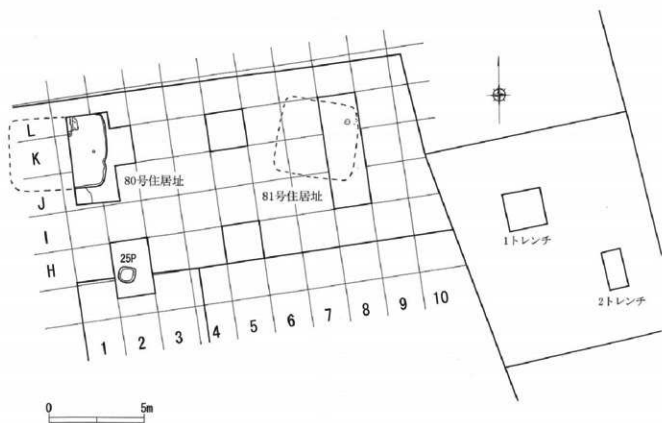
発見された遺物 黒色土器杯 1、土器片、石片



第 2 図 80 号住居址



第 3 図 81 号住居址



第 4 図 遺構全体図 (1:200)

楕円外遺跡は岡谷市北東部に位置し、横河川扇状地の上に約2km四方という広大な面積をもつ、官衙を中心とした複合遺跡である。調査区の山道端地帯は遺跡の南西端に位置し、過去の調査において一辺10mを超える大型の奈良・平安時代住居跡が発見され、今回の調査でも平安時代の遺構の発見が予想されたため、トレンチを設定し掘り進めを行った。

#### 80号住居址

調査区西北部に検出された住居址である。耕作土を除去しローム面に至ったとき、黒色土の落ち込みを検出した。覆土の黒色土は、小さな石を多く含みやや軟らかであった。

西半分以上が調査区外であり明確ではないが、推定3.9×5.0mの隅丸方形を呈する住居址と思われる。ローム層から黄色砂礫層を掘り込み、若干の傾斜をもつが比較的良好な状態を保つ壁であった。床は硬化面がなく、黄色砂礫層の床であった。耕作により一部凸凹しており柱穴はなかった。かまどは未検出であり、北壁に焼土が検出されたが構築はみられなかった。

覆土中の遺物は少なく、中央付近に完形の土師器杯が一点、ほかに土師器、須恵器、黒色土器、灰軸陶器などが出土した。

住居形態や遺物から平安時代10世紀初めの住居と考えられる。

#### 81号住居址

調査区北部やや東寄りに発見された住居址である。耕作土を除去しローム面に至ったところで焼土と小範囲の硬化面を検出した。壁は残存せず、南に拡張して探ってみたが、そこでも壁は検出されなかった。ほか、柱穴も確認されてなかった。

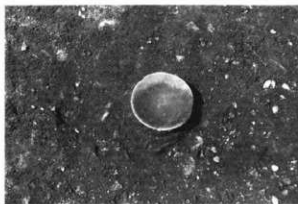
床の硬化面は約25×25cmの隅丸方形に残存し、床の東に20×20cmの方形に焼土と長さ10cm程度の石があり、これがかまどの残存と考えられる。

黒色土器・須恵器・灰軸陶器などが出土し、内外面黒色の杯が一点含まれる。

住居形態や遺物から平安時代10世紀前後の住居と考えられる。

#### 小壁穴 25P

調査区南部やや西寄りのH-2 トレンチで発見された。当初円形かと思われたが、掘り進めると87×84cmの長軸が東西にある方形を呈していた。拳大の石を多く含み、これらの石に被熱の形跡はなく、配石された様子もなかった。



第5図 80号住居址遺物出土状況



第6図 80号住居址出土遺物



第7図 小壁穴 25P

### 3. 榎垣外遺跡・山道端地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地片間町一丁目 2334-3

発掘調査の期間 平成 21 年 7 月 14 日から

平成 21 年 7 月 24 日

調査の原因 個人住宅建設

調査面積 84.5 m<sup>2</sup>

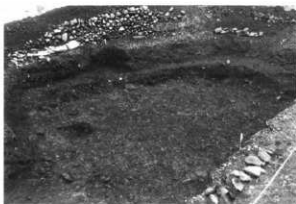
発見された遺構 平安時代住居址 2 棟

発見された遺物 土師器杯 5、土師器碗 1

灰釉陶器碗 2、灰釉陶器皿 1

緑釉陶器 2、鉄鎌 4、刀子 2

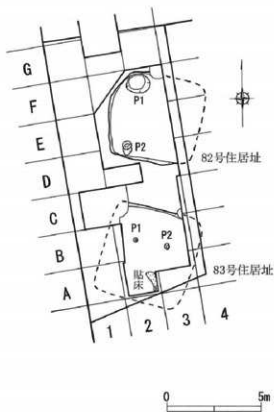
麻皮剥器 1、土器片、石片



第 8 図 82 号住居址



第 9 図 83 号住居址



第 10 図 遺構全体図 (1:200)

先に述べた調査区の南側に位置し、こちらでも遺構の発見が予想されたため、引き続きトレンチを設定し、調査を行った。

#### 82 号住居址

調査区北部分に発見された住居址である。耕作土を除去しローム面に至ったとき、黒色土の落ち込みを検出した。覆土は小石混じりの黒色土であり、この層中に土師器杯や鉄製品などが出土した。

82 住居検出時にすでに北側に小竪穴を 2 か所検出していたが、後世の攪乱であることが判明している。床面精査では一基の柱穴を検出したが、かまどは未検出である。

東側が調査区外であり全体像は把握できていないが、規模は、4.8 × (3.5) m の不整五角形を呈すると思われる。ローム層下の黄色砂礫層を掘り込み、西～北壁は良好に残存するが、南壁は東に行くほど低くなり残存していなかった。北西隅で 30cm を掘り最大である。床は硬化面がなく、黄色砂礫層が床面



となる。

柱穴は2基 (P1・2) 検出され、P1 が後世の擾乱と考えられ、P2 が本址の柱穴であり口径50×44cm、深さ23cmを測る。

土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器が出土し、緑釉陶器片が住居址内から2点、周辺からも2点出土し特筆される。鉄鏝、刀子は東部分径約1mの範囲で出土した。

住居形態や遺物から平安時代10世紀後半の住居と考えられる。

### 83号住居址

82号住居に検出された住居址で、調査区南部分にあたる。調査区南端のグリットを掘り下げたときに、床らしき硬化面を検出し住居址の存在を予感させた。その後、周囲を拡張しローム面に至ったところで黒色土の落ち込みを確認した。覆土は黒色土で小石を含み、この層中からほぼ完形の灰釉陶器碗や鉄製品が出土した。

床面精査において床の硬化面が広がるかと思われたが、A-2グリット以外には検出されなかった。北壁が2.7m検出されたのみで全体は不明であるが、住居が82号住居址と同じ方向を向いている。形状は隅丸方形を呈すると想定される。壁は最大18cmを測り、残存は比較的良好であった。床は、ローム土を用いた貼床が25×10cmの長楕円形にあり、その北側に黒色土の床硬化面が長さ80cmほど舌状に広がっていた。

柱穴は2基 (P1・2) が検出され、30cm前後の口径とそれぞれ17・34cmの深さがある。この2基は壁と平行に位置している。かまどは未検出で焼土も検出されていない。調査区外に位置すると思われる。

土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、鉄鏝、刀子が出土し、灰釉陶器には高台の長い碗がある。

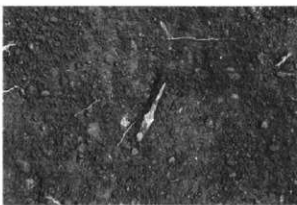
住居形態や遺物から平安時代10世紀後半から11世紀の住居と考えられる。



第11図 82号住居址遺物出土状況



第12図 82号住居址出土遺物



第13図 83号住居址遺物出土状況



第14図 83号住居址出土遺物

